

4月度座談会

生死一大事血脈抄

* * 地区

背景と大意

- 文永9年 51歳 在・佐渡
- 対告衆 最蓮房(元天台宗学僧)
- 「生死一大事血脈」とは妙法蓮華經
- 異体同心の信心に血脈が流れる
- 大信力の題目・祈念に血脈が流れる
- 大聖人との師弟不二は三世の宿縁
- 臨終正念の覚悟で信心に励め

臨終正念

- 死の瞬間まで強き信心を貫く
- いつ死んでも悔いのない信心
- 只今が臨終であるとの覚悟

人生の総決算は大満足の臨終に

臨終正念を確信し信心を貫け

生死一大事の血脈

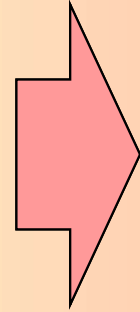
生命の生死を貫く一大事の法が
師から弟子へと血脈として流れる

➡ 血脈とは仏と弟子の師弟不二

臨終正念と祈念する信心に
生死一大事の血脈が流れる

煩惱即菩提・生死即涅槃

煩惱即菩提
生死即涅槃



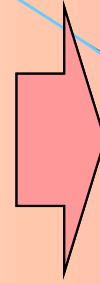
衆生の迷いが
悟りに直結

臨終正念の覚悟の祈りが
煩惱を菩提へ開き
生死の苦しみから幸福を開く

確固たる信力と唱題が
歡喜の大境涯を確立する

信心の血脈

ただ持つだけでは
全く意味がない



信心の
血脈を持て

血脈とは広布推進の地涌の使命
大聖人直結の血脈は創価学会に

師弟不二の信心こそ血脈の要諦

指導から

- 臨終とは人生の総決算の場です
- 大聖人から生死一大事血脈を受継いでいるのは創価学会以外にありません
- 変毒為薬を確信すれば
何も恐れる必要はない
- 「自身が変わる」が仏法の根本主題

苦難をもバネに**広布に戦う生命に**
妙法の無限の力が実現する